




2019年千葉県での台風被害に対する家屋補修の支援事業（千葉県受託事業）		取組開始 時期	2019年10月	取組の カテゴリ	災害対策・防災・減災
1. 団体名	クラフトバンク株式会社	2. 連携先 の団体	千葉県		
3. 取組 目的	工事会社データベースを活用した広域差配による災害後の住宅早期復旧		4. 関連する ゴール	  	

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

【取組内容】

2019年10月、台風15・19号により被災した家屋所有者に対し、当社が運営する独自の**施工カテゴリーデータベース**を活用し、全国の施工管理会社・工事会社の手配を実施、屋根へのブルーシート展張実施の支援を行い、「内閣官房 国土強靱化 民間の取り組み事例」として取り上げられた。

当社は工事会社としての知見を活用し、建設業界に特化した工事マッチングプラットフォーム「**クラフトバンク**（<https://craft-bank.com>）」を運営しており、2020年10月時点で会員数は全国約2万社に及ぶ。当社は工事会社の対応可能工種、職人数といった詳細な**施工カテゴリーデータベース**を保有しているため、「千葉で住宅復旧が出来る工事会社」を全国から探すことが出来た。

【千葉県の被害状況】

- ・台風15号の被害後、不慣れな高所作業を行った方の転落事故、死亡例が発生
- ・地元工務店に依頼が殺到し、ブルーシート展張のみで3か月待ちの状況
- ・事業実施前は千葉県内に必要店長件数は689件あった

【事業の実績】

- ・想定を超える被災者からコールセンターへの問い合わせ
- ・自治体が把握する応急施工未対応件数の**1/4（203件）**の施工を完了
- ・北海道～大阪まで全国の職人**80名**が協力
- ・クレーム率の高いリフォーム領域で**クレーム率2%以下**
- ・申込から施工まで**平均17日**

【実際の施工の様子】



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

地方を中心に工事会社は減少しており、「地元の工事会社だけで災害後の復旧を担う」ことが工種によっては既に困難になっている。千葉県では実際に住宅の復旧の遅れが生じ、復旧の遅れは生活再建の遅れ、住民の流出にまで繋がっている。

ステークホルダーとの連携

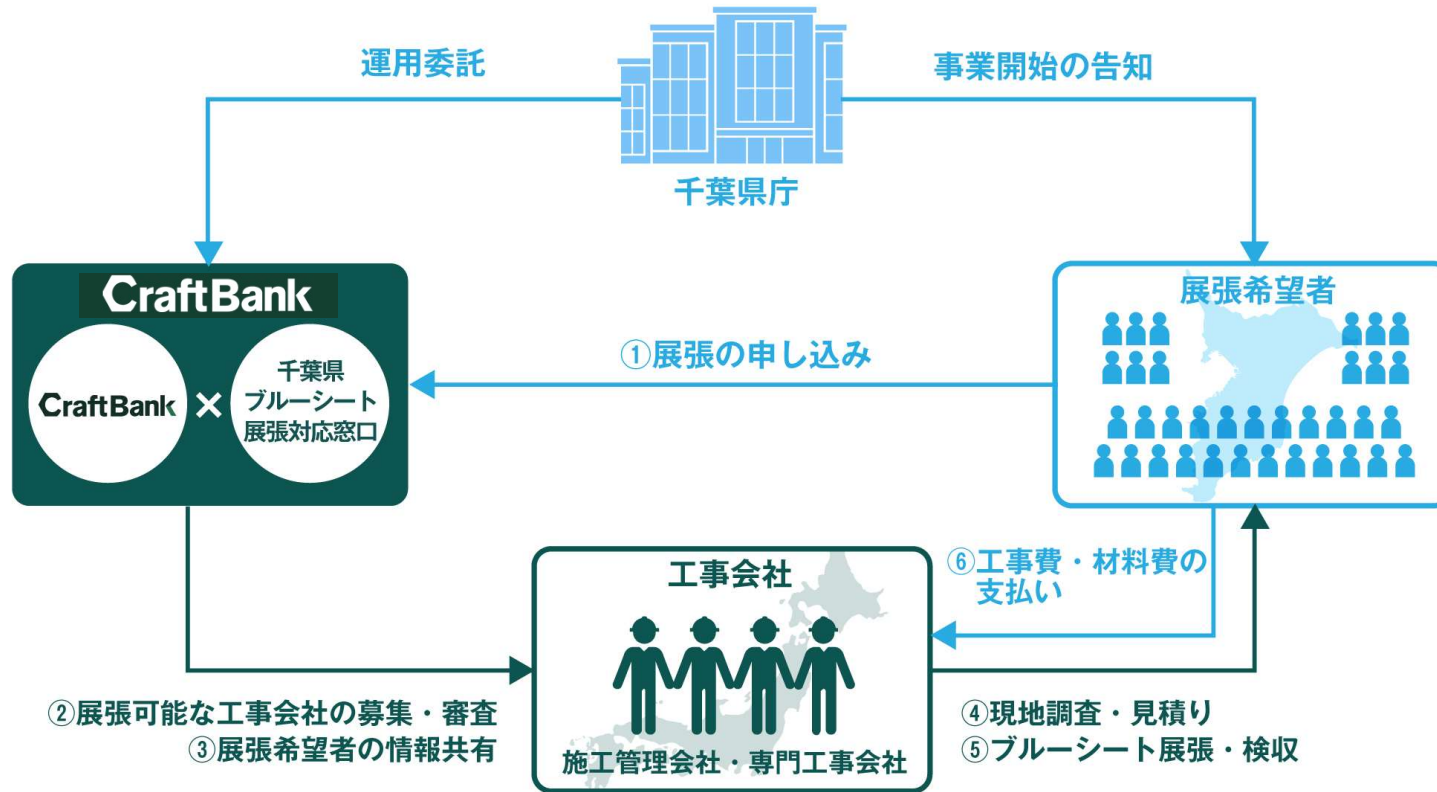
当社は当初、職人経験のある社員4名とデータベースを活用し、全国から集まった事業者とともに富津市にてボランティアでブルーシート展張を実施。同活動が千葉県担当者の目に留まり、千葉県全域で事業としてこの仕組みを導入することとなった。

モデル性・波及性

災害時に自治体が行き届く内容に、本年から感染症対策も加わり、より複雑化。官民連携がより重要になってきている。土木系の会社との連携協定はある自治体は多いが、住宅系の会社との連携協定はまだ少ないため、全国の自治体と予備防災の観点で協定を締結したい。

自由記述欄

【スキーム図】



【当社と千葉県の役割分担】

当社：千葉県ブルーシート展張対応窓口（コールセンター）を運営

施工カデータベースに基づき、施工管理会社・専門工事会社を広域差配し、申込のあった希望者にご案内SNS等を通じた詐欺被害防止活動

千葉県：県外の工事会社の交通費の支給、事業内容の被災地への告知

被災者：工事費・材料費を負担

【全国から集まった職人たち】



【情報公開】

本取組については内閣官房を始めとする政府機関にも取り上げられているほか、実績・課題等を継続してレポートにまとめ公表しています
内閣官房 国土強靱化 民間の取り組み事例

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/r2_minkan/pdf/055.pdf

応急防水施工による 家屋補修の支援事業（千葉県受託事業）事業報告書 <https://chiba2019.craft-bank.com/index.html>

なぜ、災害後の工事は遅れるのか？ ～千葉県の事例から <https://contech.craft-bank.com/n/n1cfe68be3780>